

表現豊かに書く活動を通して、  
互いに認め合うことのできる生徒の育成

印西市立西の原中学校

今回の提案は、令和2年度の「千葉県教育研究会国語教育部会研修会」における本校の研究実践の内容と、その反省をふまえた今年度の授業実践です。

1. 研究の概要
2. 授業実践の記録(1)3 学年
3. 新たな単元構想
4. 授業実践の記録(2)1 学年  
(千国研後の授業実践)

# 1. 研究の概要

印西市立西の原中学校

## 1 研究主題

表現豊かに書く活動を通して、互いに認め合うことのできる生徒の育成

## 2 主題設定の理由

本校は、「社会に対応し、心豊かにたくましく生きる若者の育成～常識と良識を持った生徒の育成～」を教育目標として掲げている。生徒は、現代社会に対応し、社会や人生をよりよいものにしていくために学び続ける力を身につけなければならない。

国語科においては、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け授業改善を進めることで、生徒が言葉への自覚を高めることを意識して書くことを目指す。その意識が、生徒の、言葉による「見方・考え方」を働かせ深めていくことは、そのまま「社会に対応」する生徒の育成につながるだろう。

本校の生徒は語彙の不足や文章の組み立てがわからないといった理由で「書く」ことに苦手意識をもっている生徒が多い。「主体的・対話的で深い学び」を、「書く」という言語活動を通して実践することにより、生徒の「もっと表現したい」「次はこのような表現で書いてみたい」という意欲を呼び起こし、さらに「深い学び」へとつなげていきたい。多様な価値観を背景に育った生徒が、そのような学びの中で「書く」という言語活動を通して、対話的に交流する場面をもつことが、生徒たちの「互いを認め合う」学び続ける力になるのではないかと考える。

## 3 研究の目標

表現豊かに書く活動の実現のために、生徒が、自分の考えや思いを積極的に言葉にしたくなるような学習場面を展開する。ここでの「表現豊かに書く」ということは、読み手の理解や目的に必要な言葉を選ぶこと、自分の考えや思いを伝えるためにより良い表現を選択することである。

次いで、作品を互いに読み合い助言しあう学びの場面を設け、異なる見方・考え方を認め合う力を高め、さらなる豊かな表現につなげていく。

## 4 研究の視点と主な実践例

「主体的・対話的で深い学び」を念頭において、研究主題の「表現豊かに書く活動」の実現のために以下の（１）を、「互いに認め合うこと」の実現のために（２）を視점에据えた。

### （１）焦点化

「表現豊かに書く活動」を「主体的に」実現するため、指導計画において次の三点を焦点化することを意識した。

一つ目は、実生活とリンクした表現意欲を喚起できる「題材設定」である。生徒たちにとって身近で必要性のある題材を取り上げることで生徒の「書きたい」という気持ちを掘り起こす。

二つ目は生徒が主体的に学ぶための、「見通し」と「振り返り」の提示である。目的や目指すゴールをわかりやすく提示することで、生徒は常に課題を意識したり、課題達成までの自分の進捗を確かめたりしやすくなる。「振り返り」は、生徒自身がその単元で何をできるようになった

のか、もっとできたかもしれないことは何なのかを振り返らせる。これにより、生徒が自己変容に気づいたり、学んだことの価値を確認したりすることができる。それが自身の達成感や次の学びにつながり、さらなる「主体的」な学習につながっていくと考えた。

三つ目は、表現するための情報取得や整理を目的とした「視覚化」の工夫である。「表現豊かに書く」ためには生徒の中に「豊か」な「表現」がインプットされなければならない。関心を引く導入部だけではない。情報整理のための思考ツールの利用や用いる語彙の類語や豊富な文末表現や副詞の意識的なリスト提示は、生徒の「書きたい」「書けるかも」といった「主体的」な学習につなげることができるだろう。

## (2) 共有化

「互いに認め合うこと」を実現するためには、「対話的」な学びの中で生徒が知識や自分たちの作品について交流し、互いの「見方・考え方」を受け止めることが欠かせない。その交流が異なる「見方・考え方」の受容に結びつき、一人では気づきえなかった「深い学び」につながっていくだろうと考える。また、自分の作品を共有し合うことで生まれる自己肯定感や自己存在感もさらに高まっていくのではないか。

そのために、生徒指導の3機能も視野に入れつつ、少人数グループ（3～4人）での作品交換や付箋や書き込みによる評価・アイデアの交流など、複数の交流方式を準備し、単元の目的に応じてフレキシブルに活用することで生徒の好奇心や協働性を高めていった。

## 5 生徒の変容と今後の課題

- 相互に読み合い、助言を行う活動を繰り返すことで、自分の文章が読まれ、仲間に評価されることを意識するようになった。また、書くことが不得意でノートを隠していた生徒が、仲間の表現に学ぼうと意欲的に協働の活動に参加するようになった。結果、互いの得意不得意も含めて認め合う空気が醸成されている。
- 目的や手順を明確にすることで、生徒が何度も推敲して文章をよくしていこうとする姿勢が身についた。
- 常に読み手がいるという意識が、多様な語彙の使用を促している。
- 「書いてみたい」文章（韻文、随筆、創作、論文など）が多様化し、文章を、自分の思いを伝える手段として前向きに捉えるようになってきた。
- 題材や授業の工夫が、生徒の変容に顕著に関係してくることに手応えを感じた。
- 文章の見本あるいはテンプレートや評価規準を生徒の達成度に合わせて複数提示することができれば、生徒が自分の力に応じて積極的に取り組み、自分の表現を高める手段となったはずである。
- 「使ってみたい表現」を生徒がそれぞれリストアップする習慣をつけていくとさらに意欲喚起と表現の豊かさのさらなる向上が望めるのではないか。
- 生徒が自己変容を自覚できるような「振り返り」の方法について、さらに研究を重ねていく必要がある。

## 2. 授業実践の記録 (1) 3 学年

(令和元年度 6 月実施)

### 1 単元名 広告を批評する ～批評文を書く～

#### 2 単元について

##### (1) 単元観

今回の実践では根拠を明確に示した文章を書く力を身につけさせたいと考える。指導事項は〔B書くこと(1)イ〕「文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫すること。」である。

自分の文章をより良い表現にしていくために互いに読み合い、批評し合う活動も入れる。新学習指導要領の「オ 論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。」を加味し、書き手の主観だけではなく、客観的に文章を書く力も大切にしていきたいと考えた。

また、「書くこと」において、自分の考えをもって対象を見ようとする姿勢は重要なことである。批評文を書くことで、対象をさまざまな角度から分析し、そこから読み取ったことをもとに、自分の考えを深めていくことができる。これは人が豊かに生きていく上でも欠かせない要素である。日常的に多くの情報が溢れる現代において、自らの力で分析し、選択や判断を迫られる場面は多々ある。このことは、新学習指導要領にも、『情報の扱い方に関する事項』が明記されたことからその重要性はうかがえる。そのような環境の中で、事物に対してただ単に悪い部分を指摘する「批判」に終始していたのでは、豊かさにはつながらない。指導にあたっては、根拠をしっかりと示し、自分の考えを伝えるということに重きを置かなくてはならない。以上を考え「批評文を書く」という言語活動がふさわしいと考えた。

批評文という表現様式で完成させていくためには、伝えたいことを明確にし、読み手を説得できるような論理の展開を学習していくことが不可欠である。そこで今回は、多様な解釈が湧き上がってくることを期待し「広告」を批評の対象として指導に当たった。

「広告」は、接しない日はないというほど、生活の中で身近なものであり、物であふれている私たちの生活にとって広告は重要な存在である。その広告の印象によって、商品のイメージや会社に対するイメージを決め、数ある中からその商品を購入することを選択している。普段情報として受け取っている広告を、作り手の立場から意識することによって、生徒一人一人に意欲的に取り組ませた。

##### (2) 生徒の実態

実態は以下のとおりである。(男子16名 女子18名)

- 文章を書くことに苦手意識を持つ生徒が多い。
- 序論・本論・結論の区別をつけて書くことへの理解が不十分な生徒が一定程度いる。
- 県学力検査では、「知識・理解・技能」「話す・聞く能力」は県平均を上回った。一方、「書く能力」「読む能力」においては県平均を下回った。特に「読む能力」は県平均と3ポイントの差があった。読む力の不足が書く力の低さにも関連していることがうかがわれた。

以上の実態から、次の点に留意したいと考えた。

◇国語辞典や類語辞典などを効果的に使わせて、自信を持って書けるようにする。

◇何をどのように書くかを明確に理解させ、構成を意識した文章が書けるようにする。

### (3) 指導観

#### ①焦点化

今回は「AC ジャパン広告学生賞」の受賞作品の新聞広告をもとに批評文を書かせた。年齢の近い人の作品に触れることによって受ける刺激があるのではないだろうか。その刺激が視覚化としても意欲につながることを期待する。今回比較したポスターは、「にせものの海」と「海洋ゴミと私たち」という作品である。この2つのポスターは、「AC ジャパン広告学生賞」の受賞作品ということもあり、メッセージ性が強く感じられる作品になっている。選考基準でもある「学生ならではの新鮮な表現力、発想力、訴求力」などが感じられるので、批評の基準になると思い、批評文のテーマにした。作品の構図や制作者の意図、工夫について触れて批評できることを期待して学習に取り組ませた。

初めに批評文の完成モデルを提示し、生徒が目指す到達点をはっきりさせた。さらに「評価基準」を示し、生徒が自分の学習進度を確認しながら進めるという見通しをもって「評価基準」を使って振り返ることで、自身の到達度や次の目標を考えさせた。

「広告学生賞」の受賞作品の新聞広告そのものの提示を導入段階に設定した。また、批評文の中で論が整理される言葉を「使ってほしい言葉」としてリスト化した。「ゆえに」「…であると思う。」「なぜなら」などの表現を教室前面に常時掲示することで、生徒の文章がより洗練されることをねらった。さらに相互交流の場面では、「推敲のポイント」を模造紙で掲示し、推敲を意識的に行わせた。

#### ②共有化

この単元では互いの作品を読み合う活動も取り入れた。他者の作品に触れることで、多面的、多角的なものごとの捉え方を知る機会となり、同時に新たな表現も習得できる。さらに、自分の作品を他者からの助言によって認められることは意欲的に学ぶ姿勢を養うことにつながり、そのことが、より効果的な表現を検討し、実践するような学びになる。これらは他者との対話により得られるものである。

以上のことから、批評文を書くことにより言葉がもつ価値への認識を高め、より豊かな生き方へつながる指導を目指した。

### 3 単元の目標 [新学習指導要領に則って立てた目標である]

・話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。

【〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ウ】

・文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。【〔思考力、判断力、表現力等〕書くこと (1) イ】

・論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。【〔思考力、判断力、表現力等〕書くこと (1) オ】

- ・自分の文章を粘り強く読み返しなが、よりよい批評文にしていこうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

#### 4 指導計画（4時間扱い）

学習過程	時配	○学習内容・学習活動	評価規準 (評価の観点・評価方法)
一次	1	<p>○教科書を読み、活動の流れと学習の重点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・便覧を用いて、「批評文」とは何かを確認する。</li> <li>・批評文モデルを確認する。</li> </ul> <p>○「評価基準」を示して見通しをもつ。 「…であると思う。」「なぜなら」「ゆえに」などの文末表現、接続表現を使うことや論理的に文章を構成することなどの表を見て、見通しをもつ。</p> <p>○広告を比較してポスターの表現について自分の意見をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広告の批評文を書くことを確認する。</li> <li>・根拠を意識して、広告の対象や内容について評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広告の表現とその内容や目的について興味をもとうとしている。</li> </ul> <p><b>【知識及び技能】</b>（観察・ノート）</p> <p>研究の視点（1）</p>
	1	<p>○批評文を書くための構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで学習した、「頭括型」「尾括型」「双括型」を確認し、自分が述べやすく、伝えやすいと思われる型を選ぶ。</li> </ul> <p>○自分の選んだ型に合わせて批評文モデルを参考にし、批評文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「…であると思う。」「なぜなら」「ゆえに」などの文末表現、接続表現について考え、論理的に文章を構成するように意識して書く。</li> <li>・「使ってほしい言葉リスト」を利用する。</li> <li>・類語辞典を用いて、同様の意味合いであるが、多少異なる他の言葉に意識を向けさせることで、表現には幅があり、さらにその中で表現は選択されていることに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・批評文を書くための構成を考え、批評文を書いている。</li> </ul> <p><b>【書くこと（1）イ】</b> (観察・ノート・ワークシート)</p> <p>研究の視点（1）</p>
二次	1 本時	<p>○互いの文章を読み合い、広告に対する分析とともに批評文の構成や表現の工夫について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書いた批評文を互いに読み合い、対比表現など効果的な構成につい</li> </ul>

		<p>○参考になったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広告に対する観点として興味深いと思ったところや、文章の構成や表現の工夫がされていると思ったところやさらに良くなる点などについて互いに伝え合う。</li> <li>・今後に生かすため参考になったことを記録する。</li> <li>・見通しで示した「評価基準」をふまえ、自分にどんな力がついたかについて振り返り、ノートに文章を書く。</li> </ul>	<p>て、自分の考えを深めようとしている。【知識及び技能（１）イ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・批評文を互いに読み合い、自分の参考になったことを取り上げ、書いている。【書くこと（１）オ】</li> </ul> <p>研究の視点（１）</p>
三次	1	<p>○自分の批評文を推敲する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に指摘してもらったさらに良くなる点のコメントをもとに自分の批評文を推敲し、書き直す。</li> <li>・班で代表一人が発表する。</li> <li>・授業を振り返り、今後に生かしていくことをノートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の批評文を推敲し、より良い文章になるように書き直している【書くこと（１）オ】</li> </ul> <p>（観察・ノート・ワークシート）</p> <p>研究の視点（２）</p>

## 5 文章の交流を行い表現や構成の工夫について話し合う場面の指導（2次 3/4）

### （１）目標

- ・書いた批評文を互いに読みあい、対比表現など効果的な構成について、自分の考えを深めようとする。【主体的に学習に取り組む態度】
- ・批評文を互いに読み合い、自分の参考になったことを取り上げ、書くことができる。【書くこと（１）エ】

### （２）展開

時配	学習内容と学習活動	指導 ●支援 ○評価	資料
8分	<p>○前回の内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広告のコピーに対する自分の書いた批評文をもう一度読み直し、推敲する。</li> </ul> <p><u>推敲のポイント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誤字脱字</li> <li>・意味のまとまりと文の長さ</li> <li>・特定の語に対応する文末 ・並立</li> <li>・主述の対応 ・ら抜き言葉 など</li> </ul>	<p>○もう一度文章を読み直し、よりよい文章に向けて推敲しようとしている。</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>（ワークシート・発言）</p>	<p>ワークシート</p> <p>短冊</p>
	<p>批評文を互いに読み合い、文章の構成や表現の工夫について伝え合おう。</p>		
	○広告のコピーに対する観点として興	・自分だけでなく、互いに読み合	

<p>35分</p>	<p>味深いと思ったところと、文章の構成や表現の工夫がされていると思ったところ、さらに工夫すると良くなるなどについてお互いに伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割を意図した4人グループをつくり、互いに批評文を読み合う。</li> <li>・互いの文章の構成や表現の工夫について評価するコメントや改善点を示したコメントなどをワークシートに書く。</li> <li>・書かれたコメントを自分で読み、参考になったこと、自分の今後に生かしていくことなどを書く。</li> </ul> <p>7分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考になったことを発表する。</li> <li>・個へのコメントを全体で共有することで表現力や語彙力を増やす。</li> <li>・見通しで示した「評価基準」をふまえ、自分にどんな力がついたかについて、ノートに文章を書き、振り返る。</li> </ul>	<p>うことで、より良い表現をめざす学習であることにつなげたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4人グループの中に、リーダーがあらかじめ含まれるように調整しておく。</li> <li>・他教科でも取り組んでいる形態を活用することでスムーズに活動に入れるようにする。</li> <li>・班隊形をつくる。</li> </ul> <p>○興味深いと思ったところと、文章の構成や表現の工夫がされていると思ったところを具体的に伝えるコメントをしている。</p> <p>【書くこと(1)オ】(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●黒板に示してあるコメントの例を参考にして書かせる。</li> </ul> <p>○自分の参考になったことをまとめ、今後に生かすようにノートにまとめている。【書くこと(1)オ】(ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班隊形を戻す。</li> <li>●改善点として何を書かれたかを箇条書きさせる。</li> <li>・「評価基準」として、見通しで示した「接続表現」「文末表現」などを使えたか、構成を意識した文章を書けたかなどをあげておく。</li> <li>・次回、改善点をもとに批評文を推敲し、書き直すことを伝え、</li> </ul>	<p>短冊</p>
------------	--	--	-----------

		今後の見通しをもたせる。	
--	--	--------------	--

## 6 成果と課題（成果○ 課題●）

- 構成の段階で「序論」「本論」「結論」と枠を作って書かせたので、原稿用紙でも意識して書く生徒が多かった。
- グループの中で互いの文章の良いところやアドバイスを考えることで、自分の文章の振り返りにつなげることができた。
- 批評文モデルを示すことで作文が苦手な生徒がまとまった形の文章を書くことができた。
- 「評価基準」をグループでのアドバイスに生かし、主体的に学習する姿が見られた。
- 相互に読み合うことで、「具体例があった方が説得力のある文になる」などの新たな気づきがあった。
- 文章の構成について子どもたち自身に考えさせる活動があるとよかった。
- グループの中で互いにコメントを書き合うだけになってしまった。文章についての話し合いをし、より深める必要がある。

### 【資料1】 「評価基準」（ループリック）

	批評文	字数	批評文の交流
A	文末表現・接続表現を工夫し、論理的に文章を構成している。 明確な根拠をもとにした批評文を書いている。	400字	読み手に対する意識をもち、根拠を明確にして意見や助言を交換している。
B+	「…であると思う。」「なぜなら」「ゆえに」などの指定の文末表現・接続表現を用いている。 ポスターの特徴と、それに対する自分の考えを、二つのポスターを比較して述べている。	400字程度	書き手と読み手の両方の視点から、自分の考えをまとめ、意見や助言を伝えている。
B	「…であると思う。」「なぜなら」「ゆえに」などの指定の文末表現・接続表現を用いている。根拠を示している。	350字未満	自分が書いた文章について、意見や発言を交換している。
C	構成が違っている。論がつながらない。 根拠が曖昧になっている。	300字未満	自分の意見をまとめるのが難しい。



生徒Bの作品

...!(=文くら...台詞小)

「...」...? ...? ...?

せ	か	し		人	表	ハ	な	年	な	た	り	だ	ア	か		人	ハ	
魚	と	よ	に	可	手	ナ	手	後	い	ち	に	が	味	ら	A	々	ッ	ゴ
ゴ	よ	ッ	に	こ	え	ア	は	は	も	か	く	ゆ	な	か	の	い	三	
三	り	ゴ	て	現	と	る	に	速	の	ら	い	そ	環	い	か	ゴ	て	間
に	ゴ	三		状	て	こ	ま	大	の	す	こ	小	環	た	ホ	ゴ	の	題
対	三	ッ	日	を	と	う	し	き	。と	は	さ	め	や	ハ	ホ	の		
可	か	の	の	突	ゴ	が	と	て	何	と	で	同	て	ハ	ホ	ス	ホ	
る	多	関	ホ	き	ゴ	と	と	よ	分	も	時	自	説	は	す	マ	ス	
る	く	係	ス	つ	か	き	の	あ	り	解	あ	ハ	を	み	に	る	イ	ク
え	な	ハ	タ	け	魚	る	の	ホ	ま	私	ヤ	る	ホ	通	手	為	な	イ
べ	る	よ	い	る	の	衝	撃	タ	突	ち	家	レ	ス	セ	に	と	え	ら
交	と	リ	の	ニ	命	何	撃	タ	突	ち	家	レ	ス	セ	に	と	え	ら
え	い	深	方	と	を	よ	を	！	感	に	四	言	！	か	と	何	め	A
ら	う	列	が	が	脅	り	幼	は	か	し	自	え	と	と	何	め	A	ア
山	危	て	可	か	い	っ	わ	ア	体	よ	し	と	と	何	め	A	ア	
る	機	一	能	レ	ゴ	子	魚	い	も	よ	つ	ア	味	家	こ	り	え	
と	感	い	海	だ	ア	三	ど	が	ア	四	く	は	た	を	系	思	B	る
思	を	ッ	一	い	で	も	ゴ	こ	百	わ	手	ッ	持	込	凶	う	の	
う	持	ハ	魚	る	魚	大	三	な	五	か	と	わ	取	た	か	。方	ゴ	
。大	海	一		と	を	ち	に	い	十	ら	し	ハ	。セ	わ		ハ	ゴ	

七興味を構えた両点が即迎してくるから、いかにかた...

広告を比較して、根拠を示した批評文を書こう

三年(二)組(三)

く...? 危機を伝えよう...  
 ...? ...? ...?  
 ...? ...? ...?

ワークシート②

自分で推敲をし、さらにグループで交わした意見をメモとして書き入れている。  
 写真の生徒 B は、文章を何度も推敲し、より良い表現にしようと心がけた。欄外まで書き込み、推敲を重ねていた。



## 2年生 単元構想

単元名 短歌をつくろう

学習材 近代の短歌（教育出版）

### 本単元で付けたい力

〔知識及び技能〕(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

エ 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

〔思考力、判断力、表現力等〕 B 書くこと

エ 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。  
オ 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。→ 限られた音数の中でどのように描写するかを考え、様々な言葉や表現を工夫する力。

### 生徒の実態

- 学力テストの結果などから、書くことに対する抵抗や不慣れな部分がみられる。
- 書くことと並行して、漢字練習の際は例文作り、意味調べなど語彙力を高める活動をしている。
- 互いに教え合うことができる生徒が多い。

### 本単元で行う言語活動

- 「近代の短歌」から既習の様々な視点を学び、限られた音数の中でどのように描写するかを考え、様々な言葉や表現を工夫する。
- ベースとなる文章から五音・七音を選び、さらにその言葉を磨いていくことでよりよい創作につなげる。
- 実際の中学生在が書いたモデルを提示することで、自分たちの目標を設定しやすくする。
- 最終的には学級で作品集を出すことを目標とし、主体的に短歌を創作する。
- 限られた音数の中でどのように描写するかをグループでも考え、様々な言葉や表現を工夫する。

### 指導計画

総時数 5時間

	主な学習活動	指導上の留意点
見出す (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最終的に「学級古今和歌集」を作ることを知り、興味関心をもつ。</li> <li>○中学生の作品に触れ、短歌の材料が身近にあることを知る。</li> <li>○近代の短歌に触れ、季語や表現技法の効果を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今の自分にしか作れない短歌を、歌集という形でまとめることで意欲を高める。</li> <li>○年齢層の近い作品に触れることで、短歌に対しての抵抗を軽減できるようにする。(『ひざし』他)</li> <li>○どのような視点で書かれているか、どのような情景が思い浮かぶかを考えさせる。</li> </ul>
自分で取り組む (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の日常生活で心が動いたことを書き出す。</li> <li>○自分の書き出したことの中から五音・七音を探す。</li> <li>○短歌を創作する。気に入った写真、秋を象徴する映像などを参考にしながら考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常の一場面を切り取り、短歌を創作させる。</li> <li>○「句切れ」「会話体を入れる」「比喩」「オノマトペ」「語順を変える」「文語を入れる」などの工夫を意識させ、工夫をさせる。</li> <li>○写真を持ってこさせたり、秋を象徴する画像や映像を提示したりする。</li> </ul>
広げ深める (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○短歌を班の人と互いに鑑賞する。</li> <li>○自分の短歌への指摘をもとに推敲する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○類義語を指摘できるように、資料を提示しておく。</li> <li>○4人グループで、互いの作品のよい点や改善点を指摘できるように助言をする。</li> </ul>
まとめあげる (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作品集を作る。</li> <li>○グループの他の人の短歌の鑑賞文を書く。</li> <li>○チェックリストを見ながら、どんな力がついたか、学んだことをどう使うかなどを自分自身の言葉で表現し、学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学校生活」「季節」などの部をつくり、鑑賞させる。</li> <li>○情景や心情、よりよい言葉に着目させ、文章にまとめさせる。</li> <li>○できた短歌と鑑賞文は廊下掲示し、学年全体で見られるようにする。</li> <li>○チェックリストを掲示し、それを見ながら、自分の言葉で書けるようにする。</li> </ul>

## 3年生 単元構想

**単元名** 広告を批評する

**学習材** 広告を批評する（教育出版）及び映画ポスター

**本単元で付けたい力**

〔思考力、判断力、表現力等〕

**B 書くこと**

- (1) イ 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫すること。
- ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫すること。
- (2) ア 関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動。  
→根拠を明らかにしながら、自分の意見を批評として書く力。

**生徒の実態**

- 学力テストを分析すると、書くことに対する抵抗をなくし、書く活動に慣れさせることが必要である。
- 毎時間、学習の振り返りカードを記入している。
- 互いの文章を交換して、読むことを楽しいと思える仲のよさがある。

**本単元で行う言語活動**

- 主体的な学びをねらい、生徒たちにとって身近な映画の宣伝コピーを用いて、短文による批評を繰り返す。
- 自分の意見を述べるのに最適な展開と適切な引用を考え、「説得性を備えた文章」にふさわしい表現を「規定表現リスト」を用いて、意図的に取り入れて文章を書く。
- 自分の考えの根拠を明確に述べる。
- セルフチェックリストに従って推敲を行う。
- 書いた文章についてグループで意見交換することで、自分の表現をよりよいものに高めていく。

**指導計画**

総時数 4 時間

	主な学習活動	指導上の留意点
見出す (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○批評文とは何かを確認し、学習の手順を確認する。</li> <li>○同じ映画の異なるコピーを用いて、それぞれのコピーの持つ製作者の意図について根拠を挙げて述べる。</li> <li>○他の映画を選択し、そのコピーの特徴や意図について、根拠を挙げて述べ、意見を交換する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学生にとって身近な映画のポスターを用いて、短い言葉から広告制作者の意図が読み取れることを体験させる。</li> <li>○言葉の意味や語順の影響力について着目し、それらを根拠とする自分の意見を持たせる。</li> </ul>
自分で取り組む (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書教材の課題を用いて、二つのコピーを比較、批評してより魅力的なコピーを推す文章を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○書くことが苦手な生徒については、テンプレートを使って、基本的な展開で書けるよう助言をする。</li> <li>○頭括・双括・尾括型の基本を思い出させる。</li> <li>○作文のための「規定表現リスト」を提示し、意図的に文章に組み込ませる。</li> </ul>
広げ深める (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○下書きを交換し、チェックリストを基に文章推敲のための客観的意見交換をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○付箋を用いて、良い点・要改善点について意見を交換させる。</li> <li>○4人グループで活動させる。</li> </ul>
まとめあげる (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意見交換で用いた付箋を参考にしながら、自分の文章を練り上げる。</li> <li>○振り返りシートで単元への取り組みを整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の付箋は、振り返りシートに貼付させる。</li> <li>○振り返りカードを活用し、指摘されて気がついたことや作品への思いを振り返らせる。</li> </ul>

## 4. 授業実践の記録 (2) 1 学年

(令和3年度6月実施)

1 単元名 言葉と社会「資料から得た根拠をもとに意見文を書く」

2 単元の目標

- ・資料を比較して共通点と相違点を見つけることができる。〔知識及び技能(2)イ〕
- ・考えの中心を明確にして、段落構成を考えることができる。〔思考・判断・表現 B(1)イ〕
- ・情報の整理の方法を理解し、考えたことを書こうとしている。

〔主体的に学習に取り組む態度〕

3 本単元における言語活動

本や資料から文章や図表などを根拠にして、自分の考えたことを書く活動。〔思考・判断・表現 B(2)ア〕

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、上記の目標を踏まえ、実社会や実生活とかかわるリアリティのある学びに取り組むことを通して、主体的・対話的で深い学びを実現することを狙う。情報を正しく理解・整理して自分の考えを述べることは、SNSによって誰でも自分の考えや、それに対するレスポンスが時を置かずに発信される現代社会において、もっとも重要な言語スキルの一つではないかと考える。コロナ禍に際してメディアですら、根拠をおろそかにした「印象」を語り、資料を恣意的に伝える現状の中で、生徒たちが、情報を正しく理解して自分の意見を述べ、他者との意見の相違を感情に左右されずに議論しあえる素地となるようにしたい。

(2) 児童生徒の実態

この学級は、入学後のアンケートでは嫌いな教科の筆頭に国語を挙げる生徒が学年で最も多い学級である。(図1)

特に図2にあるように、「書くときに困ること」として複数回答で答えさせると「書く題材が

思い浮かばない」「多く書けない」等、全体に「作文」一般について苦手意識をもち、考えること

入学時、国語のことをどう思っていましたか。  
37件の回答

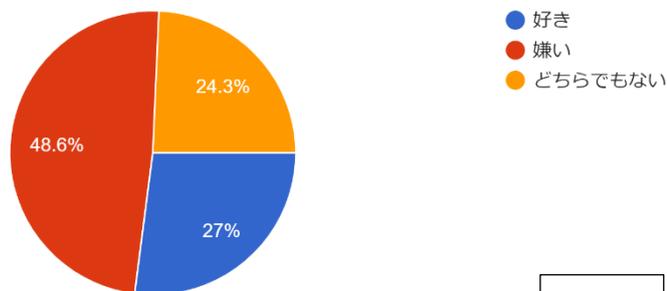


図1

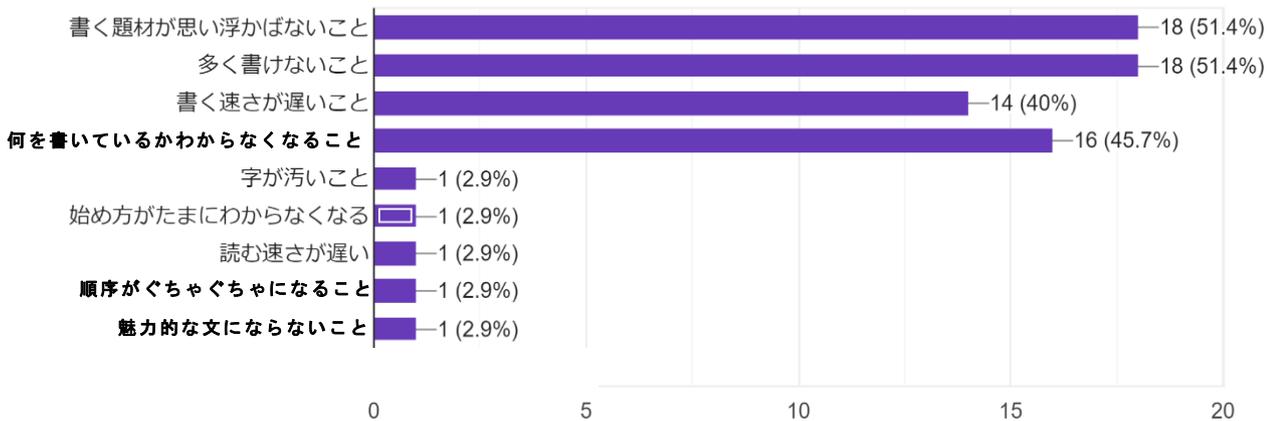
を忌避している様子が見てとれる。

また、実際に作文を書く段階で、構成については正直「よくわからない」という生徒が大半を占めていることがわかる。(図3)

国語で文を書くときに困ることはなんですか。(いくつでも)

図2

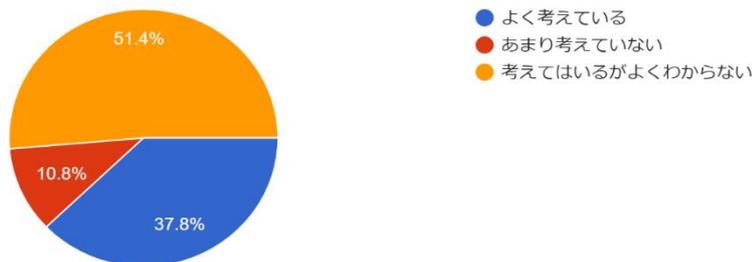
35件の回答



文章を書くとき、ことからの順序について考えていますか。

図3

37件の回答



生徒たちは、中学校の国語で「書く」こととして詩を書いたことはあるが、まとまった文章を書くのは初めての体験となる。ただし、自分が話したい項目を挙げ、効果的に伝えるための順序を考える作業は、スピーチ「お気に入りの一品」を学習するときに体験している。

さて、生徒たちは、スピーチ「お気に入りの一品」を学習する際に、情報整理を視覚化する方法として「ロイロノート」(loilo.inc)を既に利用しており、ここでカードを利用して、効果的に話すための順序を整理する方法を体験している。とはいえ、話す項目の順序を変えることの効果が明確に意図できないまま、単純に話す順番を考えたにすぎないケースが多かったように感じられる。

### (3) 指導観

「主体的・対話的で深い学び」を生徒が主体的に実現できるよう、本校の実生活や実社会とつながりがあり、自分自身が興味のある題材に取り組むことで意欲的で前向きな学習姿勢をもてるようにしたい。しかしながら、実生活においてさしたる目的意識もなく受け身で生活している生徒には、社会とつながる題材を見つけることは非常に難しい課題であることから、いくつかの

身近な題材はこちらで準備しておく。自分で課題を設定できる生徒に対しても、課題が前向きな生活、あるいは既存の社会に新たな視点を提示するような価値ある課題となるよう助言をしていく。生徒に以下の点をわかりやすく示せるように工夫する。

#### 【視覚化・焦点化】

- ・思考ツール（「ロイロノート」によるカード、ベン図・作文構成図の利用）を利用し、資料について共通点・相違点の整理分類を行わせる。
- ・話題・主張・根拠の三点はカードの色を指定し、文章構成の要素が一目瞭然になるようにさせる。
- ・意見文に有用な表現のリスト・文章構成例を生徒たちが適宜参照できるようにする。（「資料箱」\*の利用）
- ・資料を根拠にして、題材についての自分の考えを形成し、深化させることを明確な目的とさせる。

#### 【共有化】

- ・ポイントにおいて、生徒の思考プロセスや作品を共有する場面を設定する。

\*「資料箱」は「ロイロノート」（図4）の機能で、生徒が必要に応じてデスクトップに取り出して資料を閲覧できるフォルダ。

また、スピーチの際の構成の甘さを補えるよう、今回は構成の順序によって意見の伝え方が異なることを学習しながら、文章を構成できるように試みる。

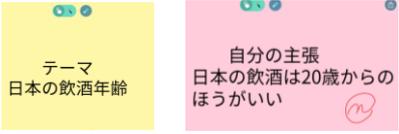
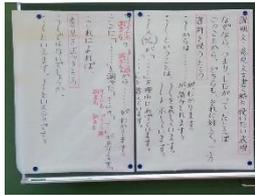
加えて、文字タイピングの速度とローマ字入力的能力に個人差が大きく、思考速度とソフト上での情報処理に差が生じることが懸念材料なので、簡易なローマ字表の準備と手書き入力の併用をサポートしたい。

### 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 〔(2) イ〕	「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように複数の資料を比較するとともに、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。〔B (1) イ〕	粘り強く引用の仕方や出典の示し方について理解をふかめ、進んで情報の整理の仕方について理解し、学習課題に沿って共通点や相違点を根拠にしながらかえたことを書こうとしている。

### 6 指導と評価の計画（全6時間）

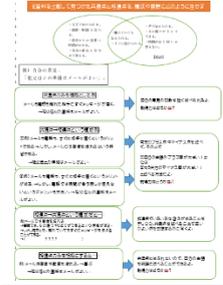
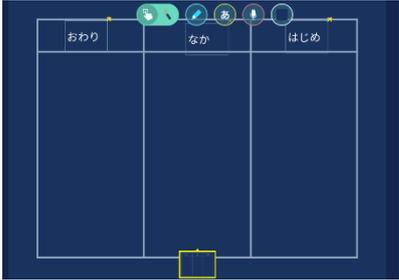
	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一 次	1 ・「学びナビ」を利用して教材の狙いを理解し、日常生活や自分自身の興味・関心をもとに取り上げる話題と主張した	・ベン図の記入の仕方とその効果についてロイロノートを用いて説	〔主体的に学習に取り組む態度①〕話題と主張し

		いことを決める。 ※話題…黄色カード、主張…桃色カード 	明する。(図5→P.22) ・決められない生徒には、例を提示する。	たいことを決めることができる。
第二次	2	・自分が取り上げた話題について調査した資料を比較して、共通点や相違点を整理する。	・ロイロノートを利用。 ・できる限り関連の資料をこちらで準備して生徒が閲覧できるようにする。(図7→P.23)	[知識・技能①] 資料を集め、比較して共通点や相違点を整理している。
	3	・前時に整理した共通点や相違点を基に、根拠を明確にして文章の構成を考える。 ※根拠…緑カード	・自分の伝えたい内容を的確に伝える方法をリストとして提示し、選択できるようにする。(図8→P.20,24)	[思考・判断・表現①] 資料を自分の主張と結び付けている。
	4	・構成に従って文章を書く。	・根拠が明確で、考えが相手に伝わる文章になっているかどうか、個別に支援する。  	[主体的に学習に取り組む態度②] 自分の考えが伝わるように工夫し、学習の見通しを持って文章を書こうとしている。(図9→P.25) [知識・技能②] 自分の考えを述べるための表現を意図的に用いている。 (図10→P.26)
	5	・根拠と主張のつながりについて推敲する。		
	第三次	6	・学習者同士で書いたものを交流し、資料の読み取りや構成の工夫について確認し合う。	・評価ポイントに沿って、グループで互いの文を読みあう。

7 本時の指導

(1) 評価規準

資料から考えた共通点・相違点を自分の主張と結び付け、効果的な展開を選んで組み立てている。[思考・判断・表現]

時配	学習内容と学習活動	指導・支援	資料
5	<p>※ノートパソコンを準備しておく。</p> <p>1 本時の学習とめあてを知る。</p>		<p>学習計画表（「意見文向上への道」） （図 9→P.25）</p>
10	<p>2 提示された例を見ながら、資料の生かし方を考える。</p>	<p>・電話とメールのベン図と文章構成例（テレビモニター）を見ながら、根拠と主張との関係を考えさせる。</p>	<p>テレビモニター 教師 PC 文章構成例 （図 8→P.24）</p>
15	<p>3 構成例を参考にしながら、ロイロノートを使用して文章を書く順序を考える。</p> 	<p>・どのような構成が自分の伝えたい内容を的確に伝えられるか考えさせる。</p>	
13	<p>・「作文構成表」を「資料箱」から取り出して用法を知る。</p> 	<p>・思考ツールとして「作文構成表」を利用させる。</p> <p>・「作文構成表」と「構成例」はロイロノートの「資料箱」に入れておく。</p> <p>・表にはベン図を作成した時と同じように、カードをドラッグで配置することができることを伝える。</p>	<p>作文構成表(図 6)</p> <p>[思考・判断・表現] ・主張したいことの根拠となることが明確になるように助言する。 ・構成例を見ながら、どの順序なら、自分の主張に納得してもらえるかを考えるように助言する。</p>
13	<p>4 自分が主張したいことと、使用する根拠をグループ内で、発表して意見を述べ合う。</p>	<p>・4人グループを作る。</p> <p>・お互いのモニターを見せて、交流させる。</p>	

<p>7</p>	<p>5 本時の学習を振り返る。 「意見文向上への道4」を記入する。</p> <p>※ノートパソコンを収納する。</p>	<p>・交流のためのテンプレートは提示する。 「私は・・・を主張するために、・・・の（共通点・相違点）を根拠にします。構成はこのような順番にします。どうでしょうか。」</p> <div data-bbox="817 338 1179 609" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【構成まで終わった人】</b> 私は、〇〇を主張するためにこの（資料名・グラフ名）からわかる・・・（～という部分）を根拠にします。構成は、このような順番（「はじめ」は・・・）にするつもりです。いかがでしょうか。</p> <p><b>【資料から読み取ったことを整理できた人】</b> 私は、この（資料名・グラフ名）から、このようなことがわかりました。この部分を根拠にしたいです。いかがでしょうか。</p> <p><b>【資料が決まった人】</b> 私は、〇〇を主張するためにこの（資料名・グラフ名）からわかる・・・（～という部分）を根拠にします。</p> </div> <p>・ロイロノートの「資料箱」に入れておいたものを利用させる。</p> <p>・ロックモードにすることを呼びかける。</p> <p>・丁寧に収納させる。</p>	<p>交流テンプレート (図11→P.26)</p> <p>意見文向上への道 (図9→P.25)</p>
----------	--	---	--

8 板書計画

**【カードの色】**

話題→黄色

主張→桃色

根拠→薄緑色

テレビモニター

構成例

4 意見文向上への道4を記入。

3 グループで、自分の主張と根拠と構成を発表する。

2 自分の主張を効果的に伝えられる構成を考える。(ロイロノート)

・ 作文構成表(資料箱)

1 根拠と主張の関係を考える。

【手順】

私は……を主張するために、……を根拠にします。構成は、このような(具体的に言う)順番にするつもりです。どうでしょうか。

根拠を明確にして文章の効果的な構成を考えよう

資料から得た根拠をもとに意見文を書く

共通のブックマーク

↓

ロイロノート

↓

Google でログイン

↓

自分のアカウント

↓

1-5 国語

↓

意見文

図4 ロイロノートのイメージ

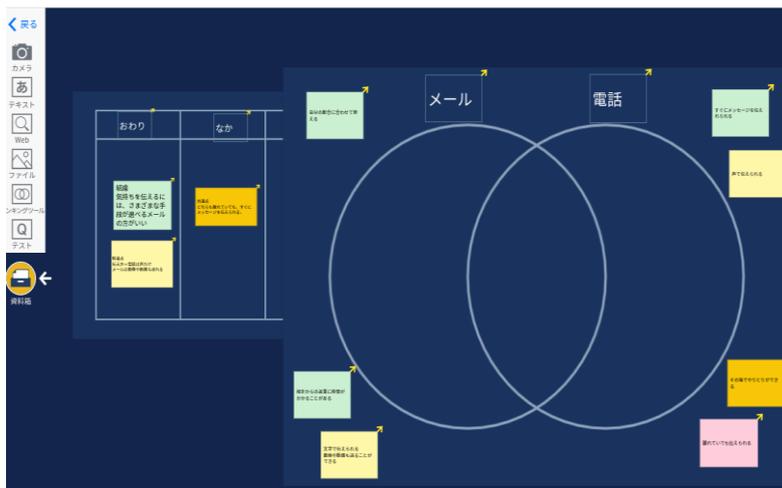


図5 ベン図 カードをドラッグで配置する。

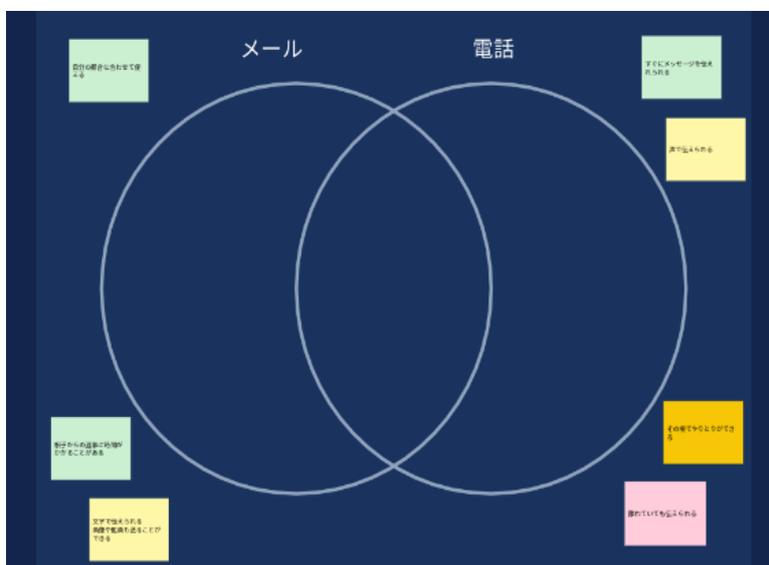
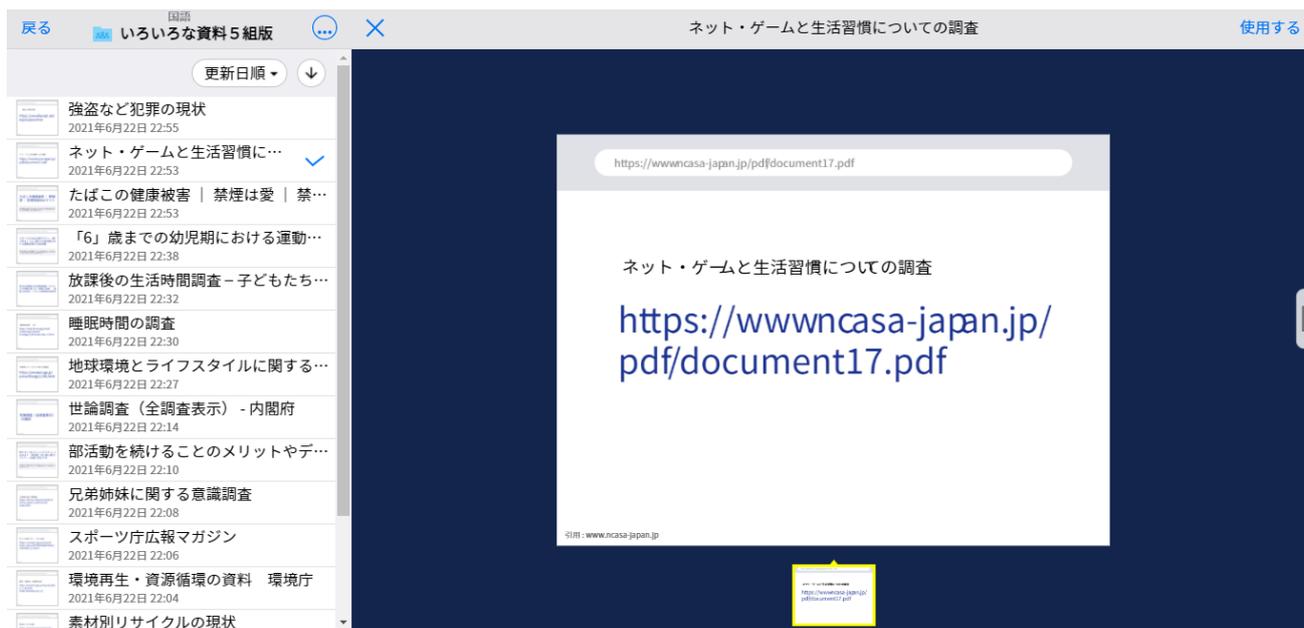


図6 作文構成表 カードをドラッグで配置することで、構成を組み立てる。



図7 資料となりうるサイトへのショートカット



PCのモニターを見せ合って、途中経過を報告し合う。





図9「意見文向上への道」

意見文向上への道

回答者名を作成者のみに表示  自動採点  集計結果を表示 ...

【1】 意見文は、どんな話題で何を主張しますか。

0/10000

【2】 自分が主張したいことと、その根拠を書きましょう。  
(例) 「・・・が・・・であることをその根拠にする」

0/10000

【3】 資料を使って、話題にしたいことの比較（共通点・相違点）はできましたか。次時の目標を書きましょう。

0/10000

【4】 文章の構成を考えるうえで、どのようなことを意識しましたか。また、次回気をつけたいこと、がんばりたいことを書きましょう。

0/10000

【5】 自分の意見を書く時に、意識したことを書きましょう。また、次回気をつけたいこと、がんばりたいことを書きましょう。

0/10000

【6】 自分の書いた文章は、根拠がはっきりとした文になっていますか。がんばったことを書きましょう。

0/10000

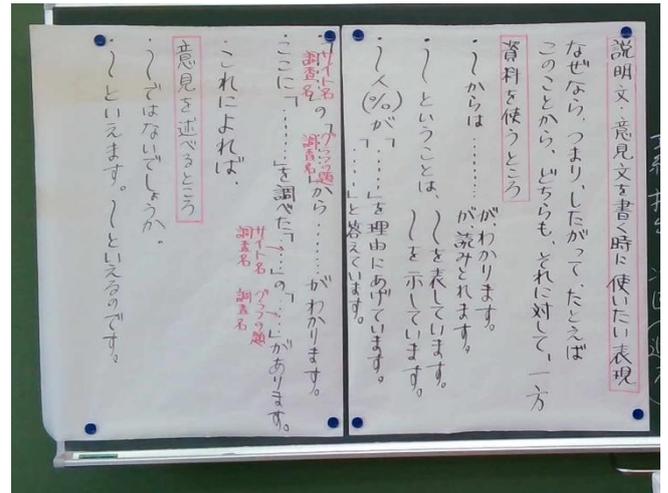
【7】 友達の記事を読んで、意見交換はできましたか。自分の文に生かしたいと思ったことを書きましょう。

0/10000

※「意見文向上への道」は「ロイロノート」の「テスト」形式を利用している。以下の機能を利用する。

- ① 各項目を「学習の見直し」と同時に「ふりかえり」として利用できる。
- ② 末尾にある「送信」ボタンを押すと、上書きはできないが、それまでは常にデスクトップ上に置いて閲覧、上書きをすることができる。（最後まで「送信」は押さないように連絡している。誤って押してしまったときは、カードの提出で代替措置をとっている。）
- ③ 「送信」することで、指導者が一覧することができる。

※授業研後に形式を変更。  
(→ P.29 図12 参照)



**【構成まで終わった人】**

私は、〇〇を主張するために  
この（資料名・グラフ名）からわかる  
・・・（～～という部分）を根拠にします  
構成は、このような順番（「はじめ」は・・・）  
にするつもりです。いかがでしょうか。

**【資料から読み取ったことを整理できた人】**

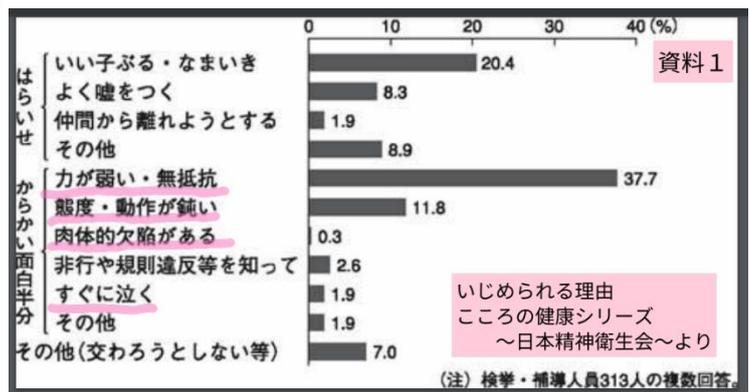
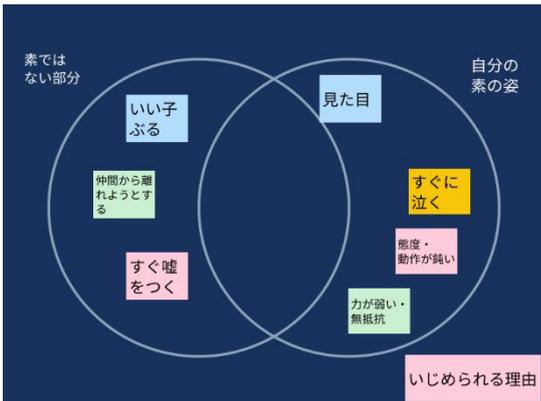
私は、この（資料名・グラフ名）から、  
このようなことがわかりました。この  
部分を根拠にしたいです。いかがでしょうか。

**【資料が決まった人】**

私は、〇〇を主張するために  
この（資料名・グラフ名）からわかる  
・・・（～～という部分）を根拠にします

上（図 10）意見文に有用な表現のリスト  
左（図 11）モニターに提示した「交流テンプレート」

■ 生徒が自分の根拠を整理したベン図と資料



■ 生徒 A・B の途中経過→完成→振り返りカード の流れ

**ネット依存症もたらす心身生活への影響データ**

■ネット依存もたらす心身、生活への影響	
身体面	低栄養、骨量や筋力の低下、深部静脈血栓症、視力の低下、眼精疲労、頭痛、けんしょう炎、腰痛など
精神面	睡眠障害、抑うつ症状、引きこもり
学業・仕事面	成績低下、留年、退学、勤務中の過剰なネット使用、欠勤、解雇など
経済面	浪費、多額の借金など
家族・対人関係	浮気、離婚、育児怠慢、子供への影響、家族・友人関係の悪化



**ネット依存症もたらす心身生活への影響のデータ**

■ネット依存もたらす心身、生活への影響	
身体面	低栄養、骨量や筋力の低下、深部静脈血栓症、視力の低下、眼精疲労、頭痛、けんしょう炎、腰痛など
精神面	睡眠障害、抑うつ症状、引きこもり
学業・仕事面	成績低下、留年、退学、勤務中の過剰なネット使用、欠勤、解雇など
経済面	浪費、多額の借金など
家族・対人関係	浮気、離婚、育児怠慢、子供への影響、家族・友人関係の悪化

**この図を見てくださいネット依存症になると色々なトラブルや病気になることがあります**

1 お互いに読み合うときにどんなアドバイスをしましたか。  
言葉におかしいことがないか  
「こっちのほうが良いよ」とか  
「これ良いね」とか

2 完成に向けて、どこに気をつけて書きましたか。  
わかりやすい  
文字に間違いがないか  
言いたいことが伝わるか  
指摘されたことをちゃんと直して良くしたか  
友達の良いのを真似する

この生徒は、普段の書き文字が著しく読みづらい生徒である。普段は振り返り等を適当に書くが、今回は終始集中して作文に取り組み、振り返りもしっかりと行うことができた。

皆さんは「自転車は車道の左側を通行」という法律はだいたいの人達が知っていると思います。それを知っている中で皆さんは、「自転車は車道側を走るのがいいか、歩道側を走るのがいいか、」どちらがいいと思いますか？

私は「歩道側」の方がいいと思います。  
車道側を走らないといけなくなるのは13歳からですが、もう車道側通行をしないといけない人もいます。

資料1では、自転車利用者に車道を走るのは危ないと思うか、アンケート調査を行うと、「危ないと思う」「やや思う」と思っている人が、合わせて約95%いることがわかります。資料2では、「後ろからくる自動車が怖いから」などがありますが、「自動車との間隔が近いから」というのが最大の理由に挙げられています。

つまり、ほぼ100%の人が車道通行が危険だと思っているのです。  
また、自転車は軽車両のため車道が原則ですが、中には例外もあります。

⑥では「道幅が狭い等安全確保のため」と挙げられていますが、資料2からわかる「自動車との間隔が近いから」というのは、似ているような意味なのではないのでしょうか。自動車との間隔



皆さんは「自転車は車道の左側を通行」という法律はだいたいの人達が知っていると思います。それを知っている中で皆さんは、「自転車は車道側を走るのがいいか、歩道側を走るのがいいか、」どちらがいいと思いますか？

私は「歩道側」の方がいいと思います。  
車道側を走らないといけなくなるのは13歳からですが、もう車道側通行をしないといけない人もいます。

「MOTAニュース」の資料1では「自転車利用者に車道を走るのは危ないと思うか」、アンケート調査を行うと、「危ないと思う」「やや思う」と思っている人が、合わせて約95%いることがわかります。資料2では「自転車車道を走ると危ないと思う理由は何か」、アンケート調査を行うと、「後ろからくる自動車が怖いから」などがありますが、「自動車との間隔が近いから」というのが最大の理由に挙げられています。

つまり、ほぼ100%の人が車道通行が危険だと思っているのです。  
ただし、自転車は軽車両のため車道が原則ですが、中には例外もあります。  
⑥では「道幅が狭い等安全確保のため」と挙げられていますが、資料2からわかる「自動車との間隔が近いから」というのは、似ているような意味なのではないのでしょうか。自動車との間隔が近いので安全確保、というの私もいいと思います。

このように、自転車によるルールはたくさんあり、例外なども生まれるので歩道を通行してもいいと思うこともたくさんあるのです。  
これらのことから、私は「歩道側通行のほうがいい」と思います。

1 お互いに読み合うときにどんなアドバイスをしましたか。  
・字の間違い ・サイト名、調査名  
・主張のわかりづらいところ  
・段落のつながりなどで、「繰り返しますが」を入れる

2 完成に向けて、どこに気をつけて書きましたか。  
・アドバイスしてもらった「サイト名や資料名」を入れる  
・主張と根拠が関連してるか、読みながら書いた

交流を経て(アドバイスタイム)使  
用した資料のサイト名を本文に組み込むことができた。

「つまり」「ただし」「このように」などの接続の語句のバリエーションが増えた。

■ 途中経過を記録したカード→構成を意識して書いた例

①

これは、「オンライン授業で困っていることは何ですか？」という6月と7月の二回にわたり行われた調査結果だ。

最も多かった理由は「友達と会えないので寂しい」、続いて「自宅なので緊張感がない」というものだった。この結果に私は疑問を持たなかった。やっと休校が終わったと思ったらまた会えない、なん。二回目の調査でどちらも割合が増えているのもうなづけるだろう。

対面授業であれば、友達と同じ空間にいられるので授業そのものを楽しめたり、お互いに教えあい、内容をより理解できたりする。授業以外の時間も一緒に過ごすので、クラスの仲も深まってくる。

②

休校やオンライン授業が続き、ストレスがたまる、モチベーションが下がるなどの悩みを抱える人もでてしまっている。早くもとの対面授業に戻りたい、そんな声が増えてきている。

では、オンライン授業の方が良いと考える人たちの意見はどうだろう。

まず、「時間を効率的に使える」ということや「感染のリスクをへらせる」という二つを理由としてあげる人が多い。通学する必要がなければ、人との接触を避けられ、なおかつ、その分の時間を他にあてることができる。資料1でわかるように、オンライン授業に必要なものをそろえなければならず困っている」と回答した割合は二回目の調査で減っている。自粛生活が長引き、オンライン環境が整った人が増えたため、不便に感じる人は少なくなっているようだ。

③

オンライン授業も対面授業も、それぞれ利点があり、選ばれる理由がある。状況によって選択せねばならない。今は、新型コロナウイルスの感染拡大がとどまらず何か対策を立てる必要がある。その対策の一つとして、オンライン授業を中心にするというのがよいのかもしれない。

④

ベン図づくりに取り組んだ。まだ途中だが、オンライン授業と対面授業、それぞれのメリット・デメリットを考え分別した。自分の意見が説得力のあるものになるように、文の組み立てに気をつけようと思う。

①～③ カードを用いて、構成を考えながら書いている。  
④は、途中経過でその日の取り組みを記録したカード。

9 成果と課題 (○成果 ●課題)

○自分の意見を述べるという目的で取り組めること、パソコンというツールを用いることで総じて、集中して課題に取り組んでいた。

○「意見文に有用な表現のリスト」(図10)により、なじみのない説明文独特の表現を文章に取り入れていた生徒が多くいた。

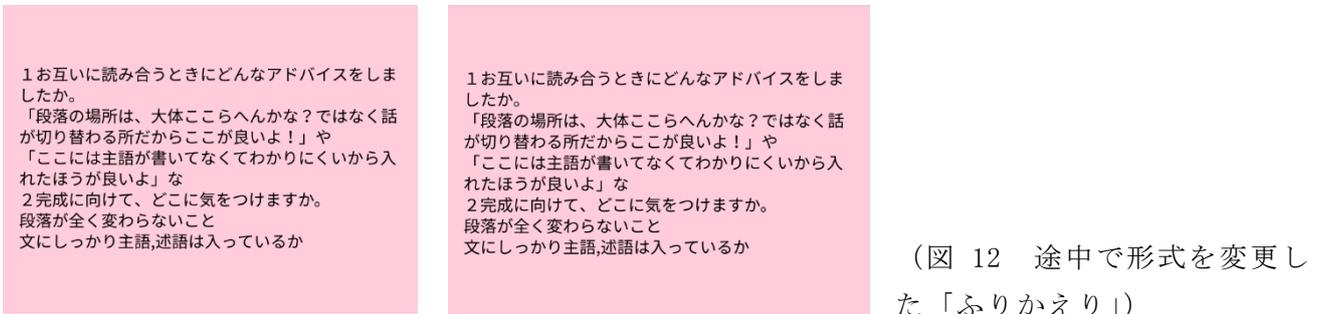


○よくも悪くもといえるが、モニター上での推敲が便利であることをどの生徒も実感できていたように思う。

○交流テンプレートを、生徒の進行段階に合わせて準備することにより、作文で避けられない進度の違いを、生徒が気にすることなく交流を行うことができた。

●予想はされていたが、すばやく適切な資料を見つけられる生徒と手間取る生徒の差が非常に大きかった。中学生が書きやすい、興味を持ちやすい資料を取り出しやすいところに置いていても(図7)、生徒は「自分で」探したがる傾向が見られた。また、今回は資料としてデータを中心に扱ったが、自分の意見の根拠として不十分なデータを利用しようとする生徒が多く(たとえば「これがよいと思う」の根拠として「選ぶ(好きな)人が多い」を使おうとする など)、資料利用の素地がまだ甘いと感じた。これについては国語学習の時間だけで補えるものではなく、他教科の学習や横断が必要になってくるだろう。それはまた、国語が様々な教科との関連が大きいものであることや、データの扱いに関する取り組みを国語科がリードする可能性を示している。今後、総合学習との横断カリキュラムの検討も重要である。

●「意見文向上への道」(ふりかえりシート)は、どうしてもアプリケーションソフトの機能に依存するところが大きく、途中で振り返りの方法を変更した。生徒が常に自分の進行を確認するためには紙媒体の方が向いているかもしれない。



●構成例や、表現リストを PC 上で閲覧できるようにしたが、PC 利用の過渡期ともいえる現在ではこちらも紙との併用が有効か。実力を出し切れない生徒がいたかもしれない。

●中学生として、文章構成以前に「文」の基本的組み立てが不十分な生徒が多く、取り組み自体が困難な生徒も多かった。「文」の指導が今後急務であると思われる。

●中学生らしい語彙や言い回しを使いこなす機会を常に狙う授業づくりも重要になってくると考えられる。